

第46号



ニュース

ニュース

大会最優秀賞を決めた谷村遼太選手(上)
8年ぶりの優勝を決め、笑顔が溢れる選手達(下)



また、日本リーグは2月9日のトヨタ自動車東日本戦から再開される。この勢いそのままもう一つのタイトル、日本リーグ優勝を目指して、より一層頑張ってもらいたい。



祝・全日本総合選手権 8年ぶりの優勝!

12月19日から5日間、大阪市中央体育館で行われた全日本総合選手権で、湧永レオリックが8年ぶり14度目の優勝を飾った。準々決勝から登場した湧永は、初戦のトヨタ紡織九州に32-30で勝利。大同特殊鋼との準決勝では23-20で勝利を収め、決勝進出を果たした。トヨタ車体との決勝戦、前半20分には湧永が4点のリードを叩きつけていたが、トヨタ車体が猛攻を見せ5点を奪い逆転を許す。その後は湧永も点を加え、前半は14-14の同点で折り返す。後半は中浦選手の連続得点で2点リードをとるが、トヨタ車体もすかさず追いつく。湧永は松村の好セーブや谷村のロングシュートなどで再びリードをとる。相手がディフェンスシステムを変更してきたが、湧永は追加点を加え、28-23で勝利を収め、この大会8年ぶり14度目の優勝を飾った。なお、大会最優秀選手には決勝戦での7得点を含む17得点を決めた谷村選手が輝いた。就任2年目の玉村監督は「(タイトルは)予想していたより早くつかむことが出来た」と興奮気味に喜びを口にした。



広島市民賞受賞!

1月15日にスポーツや芸術などの分野で市民に夢や希望を与えた人をたたえる広島市民賞を団体では昨年J1で優勝を飾ったサンフレッチェ広島、個人で佐藤寿人選手が4冠(最優秀選手賞・ベスト11・フェアプレー個人賞)を受賞した。そして女子ホッケーで初めて3冠を達成したコカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部に贈られた。レッドスパークスの内田選手は、「昨年、3冠を達成でき、更にこのような素晴らしい賞を頂けてとても感激しています。この賞を励みに今年は4冠目指して頑張りたいと思います」とコメントしてくれた。昨年の広島のスポーツ界は数多くの優勝を飾った。今年も活気のある広島のスポーツ界に期待したい。



カープ戦士・始動!

カープの前田健太投手が2013年、「世界一」と「セ・リーグ優勝」のダブルタイトル奪還を宣言した。山本浩二元広島監督率いる日本代表の一員として、WBCでは「メジャー組がないから、弱いと言われるのは悔しい。結果を残すしかない」と、投手の大黒柱の自覚は十分だ。ハワイで初の海外自主トレを行うなど万全の準備で大きな目標へと向かう。また昨季はリリーフとして69試合に登板し、防御率1.89の安定した成績を残した今村猛投手は母校の長崎・清峰高校でトレーニングを開始。早めの調整を図るため、同期の堂林翔太選手や選手会長の東田輝裕選手らとともにキャンプ地の宮崎へ向かった。今シーズンの目標は防御率0点台を掲げ、チームとしては「CSに行きたい」と意気込む。

温暖な地へ赴いてトレーニングを行う選手の一方で、地元広島でも多くの選手が自主トレを開始している。昨シーズン、右肘の怪我で長期離脱を余儀なくされた栗原健太選手が9日、大野練習場で自主トレを公開。今季の巻き返しを誓った。現在はスイングも解禁しており「打つことだけでなく、走塁や守備の感覚を戻したい」と復活へ闘志を燃やした。また、2月に行われる日本代表との練習試合出場にも意欲を見せた。キャンプインを前に、時が満ちたカープ戦士の躍動に期待がかかる。



中国電力 陸上競技部 ニューイヤー駅伝、5位入賞!

1月1日、第57回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)が群馬県で開催された。この駅伝は正月の2大駅伝と呼ばれている駅伝である。出だしは思うようなレースが出来なかったが、岡本直己選手が区間3位のタイムをたたき出し順位を一気に上げる。襷を繋ぐごとに上位チームを伺い、レースを終えてみれば2位とは僅差の5位で入賞を果たした。若いメンバーで構成し入賞したことで、これからの中国電力陸上競技部にますます注目していきたい。今後はOBでもある尾方剛さん、油谷繁さん、佐藤敦之さんのように世界を狙える選手がどんどん出てくる事を期待している。

12/25~1/25 トップス広島 試合結果

JTサンダーズ	Vプレミアリーグ	1/12 VS FC東京	● 2-3	広島メイプルレッズ	1/12 VS オムロン	△ 26-26
		1/13 VS パナソニック	● 0-3		1/14 VS HC名古屋	○ 27-18
					1/19 VS 北國銀行	○ 28-26

中国電力陸上競技部 全国都道府県対抗男子駅伝 広島6位入賞(岡本直己選手) 森本卓司選手(鳥取県代表) 米沢類選手(福井県代表)
※広島で行われた試合のみを掲載しています。



未来のサンフレッチェを 背負う存在に！

1月14日、新入団選手発表記者会見が行われた。今シーズン、サンフレッチェ広島に加入する選手は、パク・ヒョンジン選手、キム・ジョンソク選手、野津田岳人選手、浅野拓磨選手の4選手。ユースからトップチームに昇格した野津田岳人選手は「広島でずっとサッカーをして、サンフレッチェに入ることが夢でありそれが実現でき嬉しい。昨年は優勝しましたが、今年も2連覇できるように頑張りたいです。リーグだけでなくACLも優勝を目指して頑張りたいと思います。自分自身としては、試合に出ることが一番の目標で、勝利に貢献したいです。サンフレッチェは若い選手が多く、いいライバルがたくさんいます。刺激し合い、切磋琢磨してレベルアップできるように頑張りたいと思います。」とコメントした。未来のサンフレッチェを背負う存在として今後の活躍に期待したい。1月24日から一次キャンプも始まるのでしっかりトレーニングを積んで、今シーズンも活躍を期待したい。



サンフレッチェ広島
2013新加入選手発表記者会見



全国都道府県男子駅伝 広島6位入賞！ トップス広島で応援

1月20日に第18回全国都道府県対抗男子駅伝が広島市～廿日市間を中心に開催された。第3区に中国電力陸上部キャプテンの岡本直己選手を擁する広島は、スタートで43位と出遅れたが、第2区の新迫が区間トップの走りを見せると、その襷を受け取った岡本が怒涛の追い上げを見せ18人抜きで13位に浮上し、チームに勢いを与えた。その後、岡本の走りに引っ張られるように徐々に順位を上げていった広島は、6位入賞を果たした。また、3区の中継地点ではトップス広島からメイプルレッズと中国電力陸上部の選手が応援に駆けつけ声援を送った。チームメイトの清谷匠選手は、「エースとして、かなり順位を上げてさすがの走りでした。」、山崎亮平選手は「キャプテンの走りで引っ張っていく姿が見られた」と、それぞれ大活躍のキャプテンを褒め称えた。



熱血指導！ 広ガス選手

12月27日、28日に中国地区高校生強化練習が佐伯区スポーツセンターで行なわれた。27日の広島ガスからの参加者は菊田監督代行を始め、キャプテンの小池選手など9名で、28日は5名の選手が参加した。両日とも試合形式の練習で、27日は3時間、28日は6時間の間、練習が行なわれた。各選手は未来ある高校生たちの指導に熱を入れ、共に汗を流した。



日本リーグ メイプル2位に浮上！

1月12日から日本リーグが再開された。12日の試合では、メイプルが現在無敗で首位を走るオムロンを地元で迎えた。全日本総合のリベンジを果たしたいメイプルは、序盤リードしたが、宋選手が2回連続退場の間に8-9と逆転されてしまう。その後も得点を許し前半を11-18とリードされて折り返す。後半、意地を見せたいメイプルは守って速攻からの連続得点で反撃を開始し、お互いに一進一退が続く。残り3秒で宋選手が慎重に7メートルスローを決め26-26の引き分けに持ち込んだ。19日の試合では北國銀行と白熱した展開を見せ、2点差を守り切ったメイプルが勝利した。この結果メイプルは2位に浮上。現在好位置につけている。



全日本社会人対学生インドア大会、佐々木二連覇達成！ 東京インドア、村上・中本ペア準優勝！

1月20日に名古屋市総合体育館で行われた第46回総理大臣杯 全日本社会人対学生インドア大会に出場した佐々木舞選手が個人で二連覇を達成。大庭彩加選手が3位となった。同日に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で行われた、ルーセントカップ第53回東京インドアで村上・中本ペアが決勝戦で2012年天皇杯決勝と同じ対戦相手である篠原・小林ペアと決勝戦で対戦したが、惜しくも敗れて準優勝となった。



1月15日(土)にDoスポーツホッケー教室を佐伯区にある山田小学校で行った。今回は、50人弱の小学4、6年生達がスーパーホッケーを行い、レッドスパークスからは、内田選手、川端選手、西田選手、金藤選手、菅原選手の5名が参加した。最初の5分はルール説明をして選手がドリブルを披露、その後、小学生と一緒にホッケーのスティックを使い握り方の指導。さらにパスドリブル練習をした。小学生に感想を聞く「疲れるけど、面白い」「スティックの使い方が難しく、シフト練習は始めてただけど楽しかった」と楽しんだ様子だった。最後に小学生同士でドリブル競争をした。約2時間のホッケー教室だったが笑顔の絶えない充実した時間だった。

選手が小学生にホッケー指導！



今月から各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆



サンフレッチェ広島

清水航平

生年月日 1989/4/30
身長/体重 168cm / 62kg
血液型 B型
出身地 福岡県
ポジション FW
担当者のコメント

山岸選手とのハイレベルなレギュラー争いに注目！！

1月12日、13日に広島グリーンアリーナでFC東京、パナソニックとの試合がそれぞれ行われた。まずはFC東京戦、JTは第1、2セットを立て続けに取られたが小澤と井上を起用すると安定したサーブから多彩な攻撃が繰り出され、第3、4セットを連取した。約1カ月ぶりの公式戦となり、硬さが目立ち序盤は苦戦したが、そこで流れを変えたのが新人の小澤。途中出場し、食らいつくようなレシーブやスパイクで試合の流れを変えた。がむしゃらに諦めない気持ちを出したのだが、最後はミスが続き競り負けたが、若手が驚異的な力を発揮し逆転勝利まで、あと2点だったが逃してしまっ。最後の粘り弱さがでてしまい惜しくも負けてしまった。続く翌日のパナソニック戦、序盤からリズムを崩され、なかなか自分たちのプレーが出来ずにいた。選手たちにもホームゲーム開催という地元の熱い声援があるため意地を見せたい。終盤に自分達らしいプレーをするもの。要所で踏ん張りきれず、セットカウント0-1で敗退し、ホームで勝利を飾ることはできなかった。

JT、2連敗！

*** ロゴマークの意味 *** 広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

